

福岡県職員となって

京築支部 小西一貴

福岡県の職員として採用され早 1 年が経とうとしている。就職してからというもの新しいことの連続で、学生時代と比較にならない程早いスピードで毎日が過ぎていく。今回、福建会報に原稿を投稿する機会を頂いたのでこの 1 年で感じたこと、経験したことを記したい。

まず、思い出すのは 4 月 1 日の辞令交付。私は行橋土木事務所への配属が決まった。私が北九州出身ということもあり、行橋という地名に馴染みはあったものの、学生時代に日豊本線を下ることはまず無く行橋は行ったことの無い土地であった。行橋という土地で感じたことは…はつきり言ってあまり無い。というのも 10 月から豊前に移ったからである。事務所の統合に伴い 10 月からは京築県土整備事務所の本所、豊前総合庁舎で働くこととなった。入庁して 1 年で 2 回も辞令を受け取ることができ、貴重な経験ができたと思っている。

このように、入庁 1 年足らずで 2 つの事務所を経験し感じたことは、事務所が変われば雰囲気は全く変わるということである。行橋、豊前ともに京築地域にあり若い職員が多いと共通点がある。しかし、行橋と豊前では、野球などのスポーツに対する取り組みが大きく異なる。行橋の頃は昼休みに練習することなど無かったし、練習が予定されていた日であっても中止になることはよくあった。それが、豊前に移ると練習の予定日は、間違いなく練習が行われるだけでなく、昼休みまで練習をしている光景を目の当たりにし衝撃を受けた。これは、練習だけでなく試合でも同様で行橋での緩い環境に慣れきっていた自分が豊前の事務所で試合に参加したとき感じた緊張感は半端ないものだった。また、両事務所で大きく異なるのが飲み会の回数である。豊前は多い。ことあるごとに飲み会が企画され非常に楽しい。お酒の席では、日頃話す機会の少ない人とも関わりを持つことができ、年度途中で事務所が変わったものの行橋の時より早く事務所に溶け込めた気がする。

最後に、就職して最も影響を受けた人物について書かせて頂きたい。ここでは、実名を伏せるが H 積さんという 30 代女性？の先輩である。この方は飲み会あるところに姿があるすごい先輩だ。私が H 積さんと初めてお酒を飲んだのは 4 月の歓送迎会だった。H 積さんはかなり酒を飲み、そして飲ませ消えた。その消えた H 積さんを捜索する羽目になった。何度、電話しても応答せず、ホテル等で聞き込みを行ったが見つからなかった。そして、私は終電を逃した。このとき、学んだのはホテルの従業員は口が堅く、宿泊客にとっても気を遣っているということであった。実際、H 積さんはホテルに宿泊していたのだが、従業員からもたらされた情報が見た目は 20 代後半の女性、それ以外の個人情報教えることが出来ないというものであった。この情報から H 積さんを導くのは不可能だ。私は、従業員に気を遣う必要はないといったのだが、従業員の答えは変わらず明らかに気を遣ったまま

であったため、見つけることができなかった。

また、別の飲み会では、遅れてきたにも関わらず、お酒を飲んでいる人たち以上にテンションが高く、すごい勢いで酒を飲み誰よりも早く潰れた。このとき、自分ももっと若さをだし穂積さんのように攻めの姿勢を持つことも必要かもしれないと思うことは無かった。

そんな穂積さん、熱い人間で〇8歳の誕生日を祝われたときは感極まり泣いていた。あのときは、ついつい笑ってしまった。

このようなことばかり書いたが、新採の自分に丁寧に仕事を教えてくれ非常に頼れる先輩であり、自分も将来的には穂積さんのように多くの人から慕われる職員になりたいと思っている。



※京築県土整備事務所 河川砂防課